

各 位

立教大学入学センター

問題の訂正について  
(2026年度 Gn 日本語)

2026年度 Gn 日本語について、下記の通り訂正いたします。

記

<訂正箇所・内容>

4 ページ 本文下から2行目

誤 : 「1日 212 キロカロリー。」

正 : 「1日 2122 キロカロリー。」

<備考>

上記の訂正内容は、試験終了後に発覚しました。このことによる解答への影響はないものと判断し、採点において特別な措置は講じません。

以上

2026年度

# G n 日 本 語 問 題

## 注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒芯のシャープペンシルで記入することになっています。鉛筆またはシャープペンシル・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は8頁までとなっています。試験開始後、ただちに頁数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

I . 次の文を読み、下記の設問A～Iに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

「貧しさ」「貧困」という言葉の説明をしておきましょう。とてもざんねん<sup>i)</sup>なことですが、現在の世界を特徴づける表現として、「貧困」は特別な意味合いをもつようになってしまいました。ある国がどのような国かを知るとき、宗教や民族、言語や風土、芸術文化、料理などがその地域を特徴づけるキーワードでしたが、現代社会においては「貧困」という現象も大きな意味をもつようになっています。いくら豊かな文化や芸術、伝統をもっていた（イ）、貧困が深刻<sup>1)</sup>であれば、それらは失われてしまうかもしれないからです。また、貧困がげんいん<sup>ii)</sup>で紛争<sup>1)</sup>に発展<sup>2)</sup>したり、治安があつかし<sup>iii)</sup>たりする可能性もあり、そうやってしまっては文化や経済<sup>2)</sup>の発展<sup>iii)</sup>もありえません。

貧困がいまだに解決できない大きな課題であり、今後人類の英知を結集して解決にあたらなければならない問題だと世界が認識しはじめています。「持続可能な開発目標：SDGs」は、2030年までに持続可能な世界を実現するために17の目標を掲げ<sup>3)</sup>、その1つめの目標に「貧困をなくすこと」を掲げているのです。

いままでは貧しさというと、発展途上国の貧困に注目が集まり、国際的な支援のもとさまざまな対策がおこなわれてきました。命をつないでいくのに必要な食べものや水が手に入らない、医療が受けられないといったじょうたい<sup>iv)</sup>は、まだまだ世界中の発展途上国にみられます。他方で、先進国でも経済<sup>iv)</sup>的な格差が拡大することで貧しさが広がっています。SDGsは、発展途上国だけでなく、先進国においても社会的・経済的状況（ロ）、すべての人が尊厳をもって生きることができる、「誰一人取りのこさない」世界を実現することを宣言しています。

では、「貧しさ」「貧困」とはどのようなものを指す<sup>4)</sup>のでしょうか。これらを測る<sup>5)</sup>ものさしには、「絶対的貧困」と「相対的貧困」があります。

「絶対的貧困」とは、食べものがない、医療が受けられないといった、すぐにも生命の危機に直結する（ハ）じょうたいをいい、主に途上国でもちいられます。1日1.9ドル未満で暮らす人びとや、1日212キロカロリーの食料が買えない人びとなどが、この「絶対的貧困」にあたります。

（ニ）、「相対的貧困」は、その社会のへいきんてきな<sup>v)</sup>人に比べて「貧しいグループに属する人」という意味で、その社会が当たり前<sup>v)</sup>としている生活を送ることができない層のことをいいます。いい換えると「相対的貧困」は社会における格差の深刻度合を表している言葉です。

（日下部尚徳『わたし8歳、職業、家事使用人。』による）

- A. 文中の下線部        1)～5)の読みをひらがなでしるせ。
- B. 文中の下線部 ~~~~~ i)～v)を漢字でしるせ。
- C. 文中の下線部        「世界を特徴づける表現」にはどのようなものがあるか。本文のキーワードをすべて挙げよ。
- D. 文中の空所(イ)にあてはまる適切な語句を、つぎの語群の中から1つ選んでしるせ。  
 [語群]  といて  といえ  として  としたら  となると
- E. 文中の空所(ロ)にあてはまる適切な語句を、つぎの語群の中から1つ選んでしるせ。  
 [語群]  になら  にとも  にしたが  にかかわら  にあわせて
- F. 文中の空所(ハ)にあてはまる適切な語句をしるせ。  
 [語群]  一般  健康  生活  精神  特別
- G. 文中の空所(ニ)にあてはまる適切な語句を、つぎの語群の中から1つ選んでしるせ。  
 [語群]  さて  さらに  つまり  一方  同時に
- H. 「貧しさ」「貧困」に対する支援対象は、むかしと今でどのように違うか、つぎの文型を使って、説明せよ。

むかしは \_\_\_\_\_ が、今は \_\_\_\_\_

- I. つぎの文型を使って、「絶対的貧困」「相対的貧困」についてそれぞれ20字以内で説明せよ。

「絶対的貧困」は \_\_\_\_\_ を指す

「相対的貧困」は \_\_\_\_\_ を指す

## Ⅱ. 次の文を読み、下記の設問A～Gに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

これほど社会調査が増え、それも玉石混交ということになってくると、それらのリサーチが本物であるかどうかをみきわめる能力<sup>1)</sup>が必要になってくる。つまり「リサーチ・リテラシー (research literacy)」の提唱である。「リテラシー」という語は、いまや流行のようで、いまさら使うのも気が ( イ ) が、他にぴったりくる言葉が思い ( ロ ) のでお許しいただきたい。

「リテラシー」とは、要するに基本的な「読み書き」能力のことである。例えば、メディア・リテラシー (マスメディアの記事をみわけける能力) とか「情報リテラシー」 (情報機器の概念<sup>1)</sup>を認識し使いこなす能力) といったふうに使われる。

なぜリサーチ・リテラシー教育が必要かといえは、人々のリサーチに対する無知につけ込み、ゴミの情報を流す者、それを広める者、それを利用する者たちが、あまりにも多いからである。これらの者に対抗<sup>2)</sup>できる能力を持たない限り、今の、そしてこれからの社会では、そんばかり重ねる不幸な人間<sup>ii)</sup>を生み出すだけである。

現在のコンピュータの処理能力は、とてつもないレベルにまで達している。かつては一年以上もかけて計算していたある種の多変量解析も、今では瞬時に処理を終えてしまうばかりか、ご丁寧にも間違いの可能性のある箇所まで教えてくれる。学生時代にこんな機器があったら膨大な時間を<sup>3)</sup>せつやくできたのに、と思う学者は筆者だけではなからう。しかし、この便利さが<sup>iii)</sup>落とし穴<sup>iv)</sup>となることもあるのだ。

<sup>①</sup>逆説的ではあるが、<sup>4)</sup>機器の分析能力が便利になればなるほど、それを扱う人間の能力には一定以上のレベルの、目的、知識、倫理観、そして哲学が要求されるようになる。確かに今の機器は便利すぎるほど便利で、だれでも簡単に、何でもできてしまう。それだけに、正しい使い方を知らない者に扱われるのは、小学生にマシンガンを与えるのと同じ<sup>②</sup>である。

小学生に与えてもいいのは、パチンコか、せいぜい空気銃までで、マシンガンは、正しい目的と知識を持った、しかも武器を使う恐ろしさを十分に学んだ大人以外には使わせるべきではない。ところが小学生並みの頭しかないのに、あるいは知識はあってもきちんとした目的や倫理観を持たないまま、マシンガンにも等しい現代のコンピュータやソフトを弄ぶ輩が山ほどいるから困るのだ。

このリサーチ・リテラシー教育は、できればコンピュータの本格的な知識と並行<sup>③</sup>して学ぶのが望ましい。ただし、多くの概念には統計学という前提が存在するため、中学ないし<sup>5)</sup>高校から統計学を教えることが求められる。その場合、統計学の知識は概念的なものでよ

く、小学生高学年か中学生レベルで修得可能なもので十分であろう。ともすれば統計学はたいくつで難解なもののような印象があるが、ことさら難しくしているから難しく感じるだけのことで、<sup>iv)</sup> 教え方<sup>v)</sup> だけでは楽しい学問になりうるはずである。

そのうえで、高校ないしは大学に、リサーチ・リテラシーを教える何らかのクラス（例えば「社会科学方法論」や「社会調査論」など）を用意すべきであると考える。

（谷岡一郎『「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ』による）

- A. 文中の下線部        1)～5) の読みをひらがなでしるせ。
- B. 文中の下線部        i)～v) を漢字でしるせ。
- C. 文中の空所(イ)にあてはまる適切な語句を、つぎの語群の中から1つ選んでしるせ。  
〔語群〕 まぎれる　ひける　ちる　しれない　おけない
- D. 文中の空所(ロ)にあてはまる適切な語句を、つぎの語群の中から1つ選んでしるせ。  
〔語群〕 がけない　こまない　すぎない　つかない　なやまない
- E. 文中の下線部①        「この便利さ」とはどのようなことか。「ということ」で終わる文で、45字以内でわかりやすく説明せよ。
- F. 文中の下線部②        「小学生にマシンガンを与えるのと同じ」とはどのようなことか。「こと」で終わる文で、45字以内でわかりやすく説明せよ。
- G. 文中の下線部③        「リサーチ・リテラシー教育」を小学生からではなく、中高生から学ばせるという考えに賛成か反対か、あなたの考えを論拠を挙げながら述べよ。

【以下余白】



